

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念として、「地域の拠点となれるよう」に理念をかかげている。</p>	○	<p>地域の拠点となれるよう、職員の意識の向上と地域への情報提供を行いたい。また、ご本人の地域での暮らしをできるだけ継続できるよう援助したい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々、理念に基づいたケアが行えるよう、職員間で話をするよう努めている。</p>	○	<p>職員の入れ替わり時の速やかな理念の共有。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族に対しては、ケアプランの説明時等で話しているが、地域に向けてはしていない。</p>	○	<p>地域に向けて理解をもって貰えると仕組みが必要。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている</p>	<p>近所とは挨拶程度になっている。</p>	○	<p>ご近所の方に気軽に声をかけてもらったり、立ち寄って貰えるようにしていくことが必要。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>行事等の声かけはさせてもらうこともあるが、総合的に交流は少ない。また、福祉関係の事業者や、公的な機関からの誘いも、職員体制の問題等により、応じられないことが多い。</p>	○	<p>老人会の方との交流や、地域の活動への参加を考えたい。</p>

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	全く行っていない。	○	地域の高齢者や介護者に関する催しを考 えたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果をご家族や職員に伝達し、改善すべきことは、必要があればご家族にもご協力をお願いし改善に努めているが、職員の理解の到達度に関しては更に努力が必要。	○	職員の理解を深めたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を実施し、出席者より意見・質問等を受けている。	○	会議出席者をもう少し増やし、サービス向上につなげたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へは懸案事項など、常に相談をしており、市町村も必要に応じて、現場に出向ってきている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については、会議等で職員間の情報共有を図っている。また、個々の必要性に関しては、計画作成担当を中心に必要性を考え、ご家族に進言したりしている。	○	個々の必要者に対し、導入への援助の必要性を感じている。また、職員の異動が比較的多いため、定期的な研修が必要と思われる。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等、職員が学んできたことに関し情報を共有するようにしている。	○	高齢者虐待防止法についての知識の向上・虐待の分類、発見方法等、職員の入れ替わり時の伝達の強化が必要。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、ご本人の及びご家族・担当ケアマネージャー等に、利用金額の提示、サービス内容、職員体制など説明を行っている。また、解約については、契約時に解約の条件提示、解約時の支援内容等を説明、納得の上、入所して頂いている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者ご本人から苦情・意見等が寄せられた場合は、ご利用者の不利益にならないよう、ご家族とも相談し、対応している。また、各利用者に担当職員を設けており、ご利用者に連絡している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会の際は、必ず、直近の様子をお話している。また、金銭管理については、不定期ではあるが、出納帳の確認をしてもらっている。その他、必要時には職員からご家族への連絡を行ったり、家族会を実施して情報提供を心がけている。</p>	○ どの職員も対応出来るよう統一が必要。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年1回以上開催し、苦情受付担当の提示、受付場所の情報提供を行っている。また、施設玄関に意見・苦情受付担当の掲示をしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>主に、職員体制については常に現場の意見を聞いている。</p>	○ 運営全般に関し、職員の知識や意識が低くなりつつある。どの職員も常に問題意識や運営意識を持ちながら、現場のケアに当たっている体制作りが必要。

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要時には勤務変更を行ったり、事前に承知している場合には、あらかじめ勤務に組み込む等、行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動がある場合は、出来る限り新旧の職員が重なるようにし、利用者や馴染みになれるよう配慮している。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部での研修を受けた場合には、研修内容を共有できるよう発表の場を設けたり、順番に外部の研修などに参加出来るよう年度初めに計画を立て、研修参加している。また、管理者による研修や、トレーニング方法のスーパーバイズを受けている。</p>	<p>○ 更に、外部研修に参加出来るよう計画したい。また、任意の勉強会の開催を考えている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員が研修等で個々に情報交換することはあるが、ネットワーク作りなどは行っておらず、交流はほとんど無い。</p>	<p>○ グループホームのネットワークを作った方がよいと考える。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>福利厚生や親睦委員会により、職員旅行、職員歓迎会、新年会など職員間の親睦を深める機会を設けている。 年に2回、管理者が職員面談を行い、本人の意向や意見を聞く機会を設けている。</p>	

グループホームくらし

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	併設の老健ライフ2と共同での勉強会及び職員への教育。(担当 施設長)	○	新旧職員にかかわらず、個々の能力や経験に沿った計画性のある研修(法人内外)への取り組み。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前にご本人とお会いし、ご本人の状況把握に努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前にご家族とお会いし、ご本人やご家族の状況把握に努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、必要な支援の把握に努め、入所待機期間中の対応策を提起している。また、他の同様の施設紹介や、場合によっては申込援助を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人の状態に合わせて、出来る限り体験入所をお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者やご家族の状況や精神状態を出来るだけ把握し、思いを共有出来るよう努めている。また、地域や本人の習慣を引き出し、職員が学んで行かれるよう努めている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要時には連絡を取り、ご本人の意志や行動について話し合いを持つようになっている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人・ご家族双方の立場と気持ちを考えながらケアに当たっている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型導入以前の入所者が多いため、地域性が薄く、馴染みの人や場所から離れていることが多いため、関係継続はほとんど出来ていない。	○
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	活動していく中で、ご利用者同士の関係を把握し、外出時など、不安にならないよう配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	こちらから連絡することはほとんど無いが、併設施設に行かれた方については、その後の様子をご家族や担当者に聞いたり、ご利用者と共に面会に出掛けることがある。ほとんどが施設入所のため、継続的な関わりが必要と思われる方はいない。	○	継続的な関わりが必要と思われる方が出てきた場合には関わっていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、ご本人とお話する時間を設けている。また、サービス計画を立てる時には、ご本人の意向や日々の訴えを組み込んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報として、生活歴や地域での暮らし方など、関係者から情報提供して頂いている。また、入所後、新たに情報があつた場合には、職員間の情報共有に努めている。	○	新入職員があつた時の情報の共有を徹底する必要がある。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の過ごし方や心身の様子把握に努め、状況に合わせたケアに取り組んでいる。	○	職員全員が同レベルの観察力や洞察力を持てるようにしていく必要がある。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成からモニタリングまで、それぞれの職員が考え、実行している。計画更新時にはご家族はもちろん、各職員からも意見をとり、会議で検討している。	○	サービス計画についての重要性や内容、実施について、更に職員の知識の向上が必要。

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じ、計画変更をしている。	○	サービス計画についての重要性や内容、実施について、更に職員の知識の向上が必要。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画作成からモニタリングまで、それぞれの職員が考え、実行・モニタリングしている。計画更新時にはご家族はもちろん、各職員からも意見を取り、会議で検討している。	○	記録の取り方や読み方について更に職員の向上が必要。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性はないが、ご本人とご家族の状況により、なるべく要望に応えられるよう配慮している。	○	職員の状況に左右されることなく、できる限りご本人とご家族の要望に応えられるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の希望があれば、出来る限り対応している。	○	今後も希望に合わせて、個々の対応を行っていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	主に、併設施設の利用をさせてもらっている。	○	希望があれば、民間のサークルに参加出来るように出来ればよいと考えている。

グループホームくらし

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、包括支援センターへの相談事項はないが、運営推進会議等で包括支援センターにご協力してもらえると、ご家族に情報提供している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、在宅時の主治医を継続していたり、往診してもらっている。受診は主にご家族に依頼しているが、必要に応じて状況書を作成している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所時、専門医に受診していない方は出来る限り受診を依頼している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回、専従看護師が来ている。排便コントロール等相談しながらケアに活かすようにしている。	○	併設施設の看護師との協力体制の確立
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、担当ケースワーカーと連絡を取り合い、退院後の受け入れ態勢やリハビリの進展具合等、連携をとるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症が今後どのように進行するか予測の話し合いはご家族と面会時にするようにしているが、終末期のケアに関しては、今の所行う予定はなく、ご家族にも了承して頂いている。職員間の共有に関しては弱い。	○	認知症についての職員の知識の向上が必要であり、進行予測について、職員全員が考えられるようにしていく必要がある。

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>認知症についての職員の知識の向上が必要であり、進行予測について、職員全員が考えられるようにしていく必要がある。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>職員の入れ替わり時に職員の意識が低下しないようにする事が必要。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりに合わせるようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出については、職員が行ける体制作りが難しいため、理容・美容についてはご家族に依頼するか、併設施設の理美容ボランティアを利用している。また、外出時にはおしゃれして貰えるよう、衣類をそろえたり、準備の支援をしている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	主に昼食を職員と利用者で作るように実施している。その際、一人ひとり出来ることを考えながら、無理なく行えるよう配慮している。また、片付けに関しては、利用者が中心に行っており、下膳は一人ひとりが行えるよう配慮している。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好については、希望があれば支援出来るようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の認知症の進行度合いや、身体状況に合わせて支援している。また、嫌な思いをしないよう言葉がけや誘導に配慮している。		

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		

グループホームくらし

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	突発的な外出支援は難しいが、希望があれば事前に勤務体制を整え、出来る限り戸外に出られるように対応している。また、食事の買い物は出来る限り利用者が偏らないように配慮し、また、個々の日用品は出来るだけ本人に行ってもらっている。外食も実施している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の状況を考慮しながら、電話をかけている。手紙はほとんど書く方はいないが、書くことが好きな方がいる時には支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の提示はしているが、連絡を貰えればそれ以外の時間でも面会出来るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。利用者の安全を守るために玄関の鍵を掛ける可能性があることの説明と了承をご家族には貰っているが、掛けていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。利用者の安全を守るために玄関の鍵を掛ける可能性があることの説明と了承をご家族には貰っているが、掛けていない。		

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室ドアにのれんを掛けたり、ドアは原則閉める等の配慮をしながら、廊下移動時には居室をみるようにする等、安全確保に留意している。また、身体状況により、居室内の配置を変える等、安全に移動出来るように配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個々の心身状況により、危険と感じた時には危険と思われる物をそれとなく外す等、予防する配慮をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	居室内の配置を変えたり、手すりを増やしたり、薬は一人ひとりわかるように保管する等事故防止に取り組んでいる。	○	誤嚥、転倒等の危険予測、離設時の対応、防災訓練の実施等、周知徹底を継続して行っていく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	併設施設があり日勤帯には医師が常駐していること、看護師がほとんどの時間帯にいることなど、緊急時は対応出来るようになっているが、職員の訓練は行っていない。	○	応急処置や初期対応、緊急連絡対応の訓練と周知徹底。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練を実施しているが、全職員が行っていない。地域の方には、防災訓練を見学して頂いたり、ホームの防災設備の実際をみて頂いた。	○	全職員が訓練を実施出来るようにする。また、地域の方々に協力して貰えるよう、訓練時に見学して貰う等の働きかけを今後もしていく。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、契約時に説明している。また、日々、身体状況が変化するため、その都度、連絡してる。	○	職員全員が利用者のリスクを把握し、考えて行動・連絡出来るよう向上が必要である。

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	併設施設があり日勤帯には医師が常駐していること、看護師がほとんどの時間帯にいることなど、緊急時は対応出来るようになっている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、禁忌事項の把握、用法、重要な薬の把握は最低限行うように努めている。また、処方内容が変わった時には、変化に気を付けている。	○ 職員が、薬の扱いや個々の処方内容、外用薬の用法をしっかりと把握出来るようにしたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便コントロールについては看護師、主治医と相談している。また、便秘がちな方には、プランに組み込む等、職員が意識出来るよう努めている。	○ 排泄が自立されている方の排便チェックの方法検討。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口臭予防液や、歯磨き、義歯洗浄剤等の使用により、口腔保清に努めている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方には摂取量を控えてもらったりしながら、バランス良く摂取してもらえるように心がけている。併設施設の栄養士にも相談にのってもらっている。	○ 職員の病識の向上。

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	医師や看護師によるレクチャーや、感染予防マニュアル等により、職員間に対応方法を周知し、実行している。また、換気・湿度に留意している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は冷暗所で保存し賞味期限内に調理、まな板やふきん等はハイターを使用し漂白、消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはスロープが設置されており、歩行機能が衰えた方でも利用出来るようになっている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の採光は天窓が設置されており、自然光が入るようになっている。また、トイレも窓が付いており、常に換気出来るようになっている。居間は食堂と共用になっており、和室も使えるようになっている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が個室のため、特に共用空間の中に、1人になれる場所作りはしていない。和室と食堂の境には障子があり、必要があれば閉めている。和室のこたつお茶を飲んで話したりしている。		

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>ダンスやイス等、ご本人の馴染みの物や、使い慣れた物を入れて貰えるようになっている。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		<p>食堂の採光は天窓が設置されており、和室には物干し台に続く大きな窓もあることから、換気がしやすくなっている。また、トイレも窓が付いており、常に換気出来るようになっている。室温調節はエアコンと床暖房で行っている。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		<p>施設内はバリアフリーになっており、廊下・浴室・トイレ・各出入り口等に手すりが設置されている。また、居室内は、本人の身体状況に配慮した家具類の設置を心がけている。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		<p>個々の「出来る活動」と「している活動」の把握を行い、職員間で情報の共有とケアの統一を図っている。</p>
87	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>玄関には花壇や植木があり、好きな方が活動出来るようになっている。また、建物の裏手には畑があり、夏場は活動している。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○をつけること)
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度
	<input type="radio"/> ③たまに
	<input type="radio"/> ④ほとんどない

グループホームくらし

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所には○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、季節や暦の行事の他にも、日常的に外食やドライブ等外出に力を入れている。また、老健との併設を活かし、大浴場での入浴や行事やクラブ、デイケアへの参加も行っている。ご利用者個々にはそれぞれの主治医がいるが、管理者が老健との兼務であり、老健の看護師とも協力体制が出来ていることから、緊急時には速やかな対応が行える。個々の外出等の希望については、出来る限り職員体制を整え希望に応えられるようにしている。入浴に関しては、毎日好きな時間に入浴してもらっているようにしている。